

一目で分かる 胃・すい臓・大腸 がん対策

	胃がん	大腸がん	すい臓がん	
主な自覚症状	初期にはほとんど症状なし 胃カメラ・大腸カメラが早期発見に有用		初期にはほとんど症状なし 進行すると腹痛・背部痛・黄疸・体重減少	
生存率（5年）	ステージ0：ほぼ100%（粘膜内がん） ステージ1：約95%		がんの大きさ1cm以下：約80% ステージ1：約50%	
主な原因	ピロリ菌感染	大腸ポリープ	糖尿病・肥満・飲酒・喫煙・慢性膵炎・膵のう胞・ すい臓がんの家族歴など…高リスク群	
効果的な対策	ピロリ菌除菌 除菌後も定期的な胃カメラ		大腸ポリープ治療	定期的なすい臓検診 (腹部エコー・MRI・EUSなど)

※がんの統計2021 国立がん研究センター がん情報サービス
※膵臓診療ガイドライン2019年

- できるだけ早くピロリ菌の検査・除菌をしましょう。29歳までにピロリ菌を除菌すれば99.9%胃がんを予防できます。 ※Asaka.M.et al:Hericobacter15;486-490.2010
- 便潜血検査では大腸ポリープの発見率が低い（感度:10~50%）ため、1度は大腸カメラを受けましょう。大腸カメラで異常なければ、5~10年に1度が検査の目安です。
- 当院では鎮静剤を用い、眠っている間に胃・すい臓・大腸の内視鏡検査を一度に行えます。大腸ポリープが発見された方には、一度に大腸ポリープ治療まで可能です。
- 将来すい臓がんになりやすい方（高リスク群）は定期的なすい臓検診（すい臓精密腹部エコー検査、EUS、MRIなど）を受けましょう。 ※鎮静剤の効き具合には個人差があります。